

草野仁さんも感服した

動脈 & 静脈 産業として 貢献する セメントの底力

草野仁さんの長年の活躍を支えるのは、毎日欠かさないトレーニング。

それだけに、社会の「健康管理」を担うセメント産業の役割を知り、驚くとともに、感服することしきりだった。



草野仁氏
TVキャスター

横田浩氏
セメント協会理事

レークプラシッド 冬季五輪の思い出

横田 草野さんはことは、NHKでスポーツ中継をされていた頃から、拝見しています。

草野 ありがとうございます。

横田 入局9年目でモントリオール五輪に行かれていますが、次のレークプラシッド冬季五輪（1980年・米国）が思い出深いとか。私あの大会は忘れられません。アイスホッケーの決勝がアメリカ対ソ連で。

草野 横田さんは北大でアイスホッケー部におられたそうですね。

横田 1972年の札幌五輪の会場近くで生まれ育ち、小学生のときにはアイスホッケーを始めたんです。レークプラシッドは大学受験のときでしたが、入試の数日前に米ソ戦を夢中で見ていて、落つきました（笑）。

草野 アメリカは学生中心のチームでしたね。下馬評ではもちろんソ連優勢で、それを堂々と打ち破り、自國開催ということもあって、



Yokota Hiroshi

一般社団法人セメント協会理事 **横田 浩氏**
株式会社トクヤマ 代表取締役社長執行役員

北海道出身。1985年徳山曹達(現トクヤマ)入社、
2015年社長。同年セメント協会理事。

理をしつかりさせていて。それで
いいますと、セメント産業という
のは、世の中の健康管理につなが
るような仕事をしております。「動
脈産業」であり、「静脈産業」でも
あると言われているんです。まず、
動脈ということでは、セメントは
建物、道路、橋、トンネルといっ
た社会インフラの主要材料になっ
ています。

草野 資料を拝見しましたが、生

活インフラのいろんな重要な部分

に全部関わっておられて、これに

は驚きました。

横田 また、静脈というのは、セ

メントを作るときに廃棄物、世の

大変な喜びようでした。

横田 「氷上の奇跡」と言われて、
映画にもなりましたが、草野さん
はもう一つの「奇跡」に立ち会わ
れていますね。

草野 私はスピードスケートの実

況を担当しておりましたが、アメ

リカのエリック・ハイデンが50

0mから100000mまで、史上

初の5種目完全制覇を成し遂げた

んです。その歴史的瞬間をアナウ

ンサーとして中継できたのは、す

ごく幸運なことでしたね。今は短

距離と長距離の専門化が進み、5

冠達成はもう二度とないのではないかと思いません。

横田 すばらしいですね、健康管

社会の“健康管理”を 担うセメント産業

主原料の石灰石は 国産100%

横田 そうおっしゃる草野さんご
自身もスポーツ万能で、足も速い
し、力も強い。いまだに体を鍛え

ていらっしゃるのは有名です。

草野 放つておくと筋肉が落ちま
すから、朝食後、少し休んでから、
まずエアロバイクを20分漕ぎます。
次にダンベルを使った腕の体操を
ガッチリと。しめに腹筋を100
回ぐらい。食生活では糖質のとり

すぎに気をつけています。

横田 国土の狭い日本ではゴミの

最終処分場にも限りがあり、その
寿命は約20年とされています。と
ころが、もし我々、セメントメー
カーや廃棄物の受け入れをやめた
とすると、6年ちょっとで処分場
が一杯になってしまふ、とセメン
ト協会では試算しているんです。
それほど大量の廃棄物を単に燃や
してしまうのではなく、原料とし
てうまく使えるということが、セ
メント産業の大きな社会的意義だ
と思っています。

草野 資料を拝見しましたが、生

活インフラのいろんな重要な部分

に全部関わっておられて、これに

は驚きました。

横田 また、静脈というのは、セ

メントを作るときに廃棄物、世の

中でいうゴミをずいぶん使つてい
るんです。セメントを1トン作る
のに廃棄物を約480kg使い、原
料の半分近くが産業や人々が日々
捨てるゴミ由来なんですね。原料
の石灰石、それに粘土を混ぜ
て焼く、というんですか。そうし
てできると。

草野 セメントやコンクリートに
ついて、あまり詳しく知らなかっ
たんですが、セメントというのは
原料の石灰石、それに粘土を混ぜ
て焼く、というんですか。そうし
てできると。

横田 そうなんです。主原料は石
灰石、まあカルシウムですね。あ
と副原料として粘土、けい石、鉄
分を加えます。もともと副原料は
天然由来でしたが、今は廃棄物に
置き換えています。それらをキル

ンという回転窯で1450℃の高温で焼くんです。こうした原料は全部、日本国内で調達できます。こういう基礎素材というのは、実はセメントしかないんです。

草野 いや、そうだと思います。小学生の頃、先生や、いろんな方が痛いほど言っていたのは、「日本は資源の乏しい国です。そこから皆さんはがんばって、自分の可能性を思い切り広げなくてはいけません」という意味で、本当に日本は天然資源には恵まれない国ですが、ことセメントの石灰石に関しては、



Kusano Hitoshi

TV キャスター 草野 仁氏

満州・新京生まれ、長崎県育ち。1967年東京大学文学部社会学科卒業、NHK入局。77年東京アナウンス室へ。モントリオール(76年)及びレーキプラシッド(80年)五輪をはじめ、さまざまなスポーツ実況を担当。また「ニュースセンター9時」のキャスターも務めた。85年NHK退局、以後、フリーのTVキャスターとして活躍。TBS「世界ふしき発見!」は38年続いた。現在はテレビ東京「主治医が見つかる診療所」などに出演中。



石灰石は日本で自給できる唯一の鉱物資源。露天掘り鉱山のスケールの大きさに驚く。
写真提供:株式会社 戸高礦業社

ずっと自給体制でやつてこられたということですね。

横田 はい、石灰石は100%国産で、唯一自給できる鉱物資源なんです。2億年から3億年前のサンゴ礁が海底に沈んで堆積してできたもので、それが隆起して、今は九州をはじめ日本全国に分布しています。

災害廃棄物も セメント工場が処理

草野 産業廃棄物が原料として使えるというのは、ほかの産業にまったくないものですよね。ということは、石川県で地震がありましたけれど、そこで崩壊して出たものも必ず使えるわけですね。

横田 瓦礫をはじめとする災害廃棄物と言われるものですね。地震や水害が起きた場合、できるだけ近いところで処理しています。石灰石の分布にあわせて、セメント工場は北海道から沖縄まで全国にあります。東日本大震災のときは東北の工場に運びました。これ

ずっと自給体制でやつてこられたということですね。

横田 はい、石灰石は100%国産で、唯一自給できる鉱物資源なんです。2億年から3億年前のサンゴ礁が海底に沈んで堆積してできたもので、それが隆起して、今は九州をはじめ日本全国に分布しています。

國、あるいは自治体と協定を結び、災害が発生した時には工場設備を最大限使って、できるだけコストがかからない形で処理をする、ということになっています。無論その前に、多発するゲリラ豪雨や、もちろん地震への備えも必要ですから、ダムや地下放水路、防潮堤といった防災インフラが重要です。國土強靭化を実現し、國民の生命と財産をしっかりと守るために、我々の果たす役割は大きいと自負しております。

草野 埼玉県八潮市で道路陥没事故がありましたが、下水管の耐用年数50年を超えているところは、けつこう多いそうです。インフラに関わる各業界の皆さんにはがんばっていただかないと。

横田 ええ、これがなかなか難しいのは、2009年頃、「コンクリートから人へ」というキャッチフレー

持続可能な産業で あるために

草野 埼玉県八潮市で道路陥没事故がありましたが、下水管の耐用年数50年を超えているところは、けつこう多いそうです。インフラに関わる各業界の皆さんにはがんばっていただかないと。

横田 ええ、これがなかなか難しいのは、2009年頃、「コンクリートから人へ」というキャッチフレー

ズが流布して、建設に携わる人がすごく減ったことがありました。インフラを復旧してリニューアルするときに、作業の人が足りないんですね。そこで今、ゼネコンさんも我々も、DX（デジタル・トランクスフォーメーション）ということで、機械、コンピューターをうまく利用して省人化し、効率的に施工する研究を進めていまして、時代の要請にいかに応えるかということを業界挙げて取り組んでいるところです。

草野　いや、皆さんのがやつてらっしゃることの内容を知れば知るほど、日本が世界に胸を張れる、すばらしいお仕事だと思いますね。

横田　ありがとうございます。イシンフラも本当に寿命が来たものは新しくしなければなりませんが、メンテナンスですね。デジタル技術などをうまく使うことで劣化を事前に診断しながら、上手に補修をする。その補修に適したセメント、コンクリートを開発するといふことも地道にやってきています。今あるものをいかに低コストでサステイナブルに利用できるか、そ

ういう研究開発も一生懸命やっています。

CO₂排出削減を目指して

草野　すばらしいと思います。ところで、よくカーボンニュートラルと言いますが、この問題についてはいかがですか。

横田　鉄と並んで、産業としてはCO₂の大きな排出源ですので、我々にとって大きな問題の一つです。石灰石は化学式でCaCO₃。これを高い温度で焼くとCaOとCO₂に分かれ、製造過程でどうしてもCO₂が出てくるんです。これは仕方がないのですが、このCO₂をキャッチして、廃コンクリートと合わせると、また石灰石と同じ成分になるんですね。こういう循環の技術を懸命に開発していく、実験室レベルではできるというところまで来ています。これをいかに低コストでやっていくか、実際のプロセス技術を開発していくところが今の段階です。従来なら

ば不可能と思われていたことが、みんなで知恵を絞って、できそうだ、我々業界人としても非常な誇りですし、日本のものづくりが、他の国々にすごく貢献できることも、ぜひお役に立ちたいと考えています。

草野　まったく輸入に頼らず、自分たちでずーっとこの仕事を続けてこられた。これはもう、業界の皆さんが必要になって努力された、その集積の結果だと思うんですね。皆さんへの敬意を心から持りました。

横田　ありがとうございます。粘り強く、知恵を絞って、セメント産業が健全に持続できるような努力を業界挙げてしていくことがすごく大事だと思っています。



トクヤマ南陽工場の巨大なキルン(回転窯)。1,450℃の高温で焼成するため、副原料として使う廃棄物は無害化され、二次廃棄物も出ない。

草野　ぜひ世界の先陣を切って、

そしていろんな目標をクリアしていくことを、お願いしたいと思います。

横田　ありがとうございます。こんな気持ちでがんばります。

草野　ぜひお願いいたします。

横田　セメントが日本を救う！そんな気持ちでがんばります。